

# 小中統廃合10年で方針

## 市教育長 校長会で考え

### 規模、配置の適正化目標

福井市の吉川雄二教育長は、市内小中学校の統廃合について今後10年をめぐり方針を定め、一部で統廃合の検討を求める声のある複式学級がある学校については、地域の意見を吸い上げていきたいとの考えを示した。

(川上桂)

3日の市校長会の月例会での教育長就任あいさつの中で、学校規模の適正化を長期目標として掲げ、方針を述べた。

吉川教育長は福井新聞の取材に対し「県内で統廃合が進む中、福井市としても何らかの考えを出す時に来ている」と説明。

「統廃合ありきという話ではない」と前置きした上で、統廃合の可否や対象校も含めて議論し、義務教育学校化などいろんな選択肢を考える必要があると話した。そのほか、大規模学校の適正化も課題に挙げた。

本郷小の統廃合に約10年かかったことから「そろそろ下、長橋、一乗、上支殊、殿」の複式学級があるのは大安寺、国見、殿員、殿員の働き方改革を掲げた。

美山啓明、越廼の8小学校。文部科学省が2015年1月に示した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、1学年1学級以下の小中学校は「統廃合の適否を速やかに検討する必要がある」としている。

吉川教育長は市校長会でこのほか、短期目標として新学習指導要領への対応、中期目標として教員の働き方改革を掲げた。